

価値創造ストーリー

価値創造の軌跡

創業からの100余年(1909-2014)

※1918年度、1943年度、1944年度のお客さま戸数についてはデータ不詳のため未記載としています

創業から原爆投下、
そして終戦へ
1909-1945

1909年 広島瓦斯株式会社を設立



設立当時の本社工舎

1910年 尾道瓦斯株式会社と合併

1913年 呉瓦斯株式会社と合併

1917年 広島電気軌道株式会社と合併、
社名を広島瓦斯電軌株式会社に変更

1921年 阿賀工場操業開始

1942年 電鉄部門を広島電鉄株式会社として分離、社名を広島瓦斯株式会社に変更

1945年 原爆による壊滅的被害

原爆で焼失した広島工場瓦斯ホルダー
撮影者：川本 俊雄、提供者：川本 祥雄戦後復興と石炭から
石油への転換
1946-1969

1949年 広島証券取引所に上場

1958年 海田工場操業開始



操業開始当時の海田工場

1960年 広島瓦斯燃料株式会社を吸収合併

第1回ガス展開催



第1回ガス展実演風景

1962年 中国プロパン瓦斯株式会社を吸収合併

1969年 プロパン部門を広島ガスプロパン株式会社として分離

広島ガス株式会社の
発展
1970-19941970年 広島瓦斯株式会社から
広島ガス株式会社に社名変更

1972年 広島ガスサービス株式会社設立

1975年 広島ガス集金株式会社設立(現・広島ガスメイト株式会社)

1982年 尾道工場操業開始

1988年 ガストピアセンター竣工



1994年 コークス炉廃止



36年の長きにわたりコークスを作り続けた海田工場コークス炉

天然ガス転換と
ガス販売量の拡大
1995-2009

1995年 天然ガス転換開始

廿日市工場操業開始、
LNG導入開始

操業開始当時の廿日市工場

1997年 お客さま戸数
40万戸突破

1998年 広島ガステクノ株式会社設立

1999年 備後工場操業開始

2000年 東京証券取引所
市場第二部に上場2001年 株式会社ビー・スマイル
を設立

2002年 天然ガス転換完了

2003年 福山瓦斯株式会社と共同で瀬戸内パイプライン株式会社を設立

2006年 東広島製造所操業開始

2009年 創立100周年

創業100年を超えて
2010-20142012年 供給ガスの標準熱量
を46.04655MJから
45MJに変更広島ガステクノ株式会社と広島ガスサービス株式会社が合併、社名を広島ガステクノ・サービス株式会社に変更
株主優待制度導入決定

お客さま戸数の推移

450,000 (戸)

400,000

350,000

300,000

250,000

200,000

150,000

100,000

50,000

0

1909 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2014 (年度)

価値創造ストーリー

価値創造の軌跡

この10年の動き(2015-2025)

都市ガス製造工場の
機能拡大

経営基盤強化と
ブランド戦略

グループの成長に向けた
取り組み

エネルギー事業の
普及拡大と発展

サステナビリティによる
広島の実現

2015年 東京証券取引所市場第一部
銘柄に指定



東京証券取引所市場第一部指定セレモニーの様子

2016年 廿日市工場機能拡大、
標準LNG船の受け入れ開始



廿日市工場



標準LNG船の初入港

2017年 Web会員サイト開設

シンガポール駐在員事務所
開設(現・シンガポール事務
所)

中国電力株式会社と共同で
海田バイオマスパワー株式
会社を設立

企業スローガン「このまち
思いエネルギー。広島ガス」
制作



企業CM「このまち思い物語 第一話」

ポイントサービス、生活関連
サービスを開始

2018年 広島ガス防災センタービルの
運用開始



広島ガスライフ株式会社設立

「広島ガスグループ
2030年ビジョン」策定

2020年 東邦ガス株式会社、西部ガ
ス株式会社と共同でTSH
Birdsboro LLC設立

広島ガスグループ
「このまち思い SDGs実行
宣言」策定

2021年 海田バイオマスパワー株式
会社が海田発電所の営業運
転開始



広島ガスグループ
「2050年カーボンニュート
ラルへの取り組み」策定

2022年 東京証券取引所の市場区分
の見直しにより市場第一部
からプライム市場へ移行

カーボン・オフセット都市ガ
ス供給開始

2023年 特定送配電事業開始

2024年 グリーン電力の
一般販売開始

2025年 「このまち電気」の
一般販売開始



お客さま戸数の推移
420,000(戸)

415,000

410,000

405,000

400,000

395,000

390,000

385,000

380,000

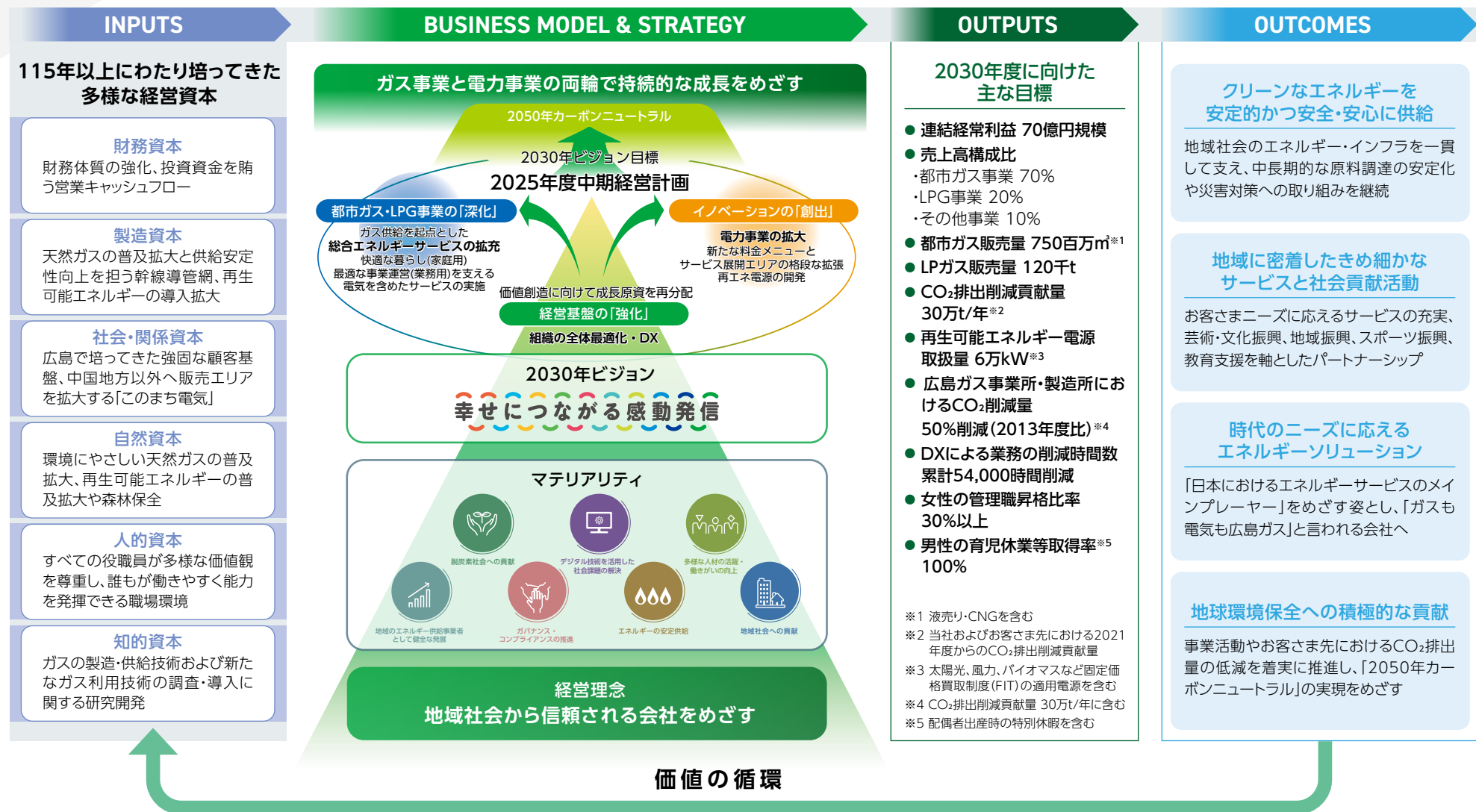
0

2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025(年度)

価値創造ストーリー

価値創造プロセス

広島ガスは、115年以上にわたり培ってきた多様な経営資本を活かし、ガス事業と電力事業の両輪で持続的な成長をめざすとともに、サステナビリティ経営を推進することで、持続可能な社会の発展に貢献します。



価値創造ストーリー

価値創造プロセス

※関連する指標の数値は2024年度実績

財務資本

- 自己資本比率
- 営業キャッシュフロー※6

52.7%
92億4千3百万円

自己資本比率の向上および有利子負債残高の低減により、財務体質の強化に努めています。その上で、必要十分な安心・安全・安定供給投資を実施するとともに、成長投資による継続的な企業価値向上を図っています。なお、投資資金については、主に営業キャッシュフローで賄うほか、社債および金融機関からの借入金などにより調達しています。2025年度中期経営計画の3カ年(2025年度～2027年度)には、約300億円のキャッシュインを想定しています。

※6 営業キャッシュフロー = 親会社株主に帰属する当期純利益 + 減価償却費

製造資本

- 設備投資 90億円(うちカーボンニュートラルへの投資12億円)
- 導管延長 5,320km
- 都市ガス販売量 479百万m³

天然ガスの普及拡大と供給安定性向上を目的とした幹線導管網の整備、再生可能エネルギーの導入拡大に継続的に取り組んでいます。2024年度は、需要の拡大を基本戦略としてガス事業を中心に設備投資を実施しました。2025年度中期経営計画の3カ年(2025年度～2027年度)には、基盤事業の維持・拡大に必要な投資として、都市ガス製造・供給設備や生産性向上に資するデジタル投資などに約215億円を使用する計画です。また、新規事業への投資として、再エネ電源の開発などに約60億円を使用する計画です。

社会・関係資本

- 都市ガス供給区域 広島県内7市4町(都市ガス普及率 約61%)
- 都市ガスお客さま件数 41万8千件

これまで築いてきたお客さまとの信頼関係に支えられ、2024年度は、都市ガスのお客さま件数は9年連続、LPGのお客さま件数は6年連続の増加となるなど、強固な顧客基盤を有しています。今後は、当社グループのガス供給区域を越え、新たな電気料金メニュー「このまち電気」のサービス展開エリアの拡大を進め、2030年度契約件数10万件をめざしていきます。

自然資本

- LNG年間契約数量
- 再生可能エネルギー電源取扱量

約35万t
4万6千kW

環境にやさしい天然ガスの普及拡大に加え、バイオマス発電をはじめとする再生可能エネルギーの普及拡大や森林保全などを通じて、持続可能な社会への貢献をめざしています。LNG調達先の多様化を図っており、2025年時点でサハリン、大阪ガス(株)、マレーシアから年間約35万t(年度により変動)を調達しています。再生可能エネルギー電源取扱量については、2030年度目標6万kW※7に対し、2024年度は約78%まで到達しています。

※7 太陽光、風力、バイオマスなど固定価格買取制度(FIT)の適用電源を含む(対象会社：広島ガスグループ)

人的資本

- 従業員数
- 採用人数に占める女性比率

654人
37.5%

すべての役職員が多様な価値観を尊重し、誰もが働きやすく能力を発揮できる職場環境をめざしています。ワーク・ライフ・バランスや女性活躍の推進など、多様な人材の活躍につながる働き方改革を推進するほか、役割遂行・業務課題の達成度を公平・公正に評価し適正に処遇に反映させる人事処遇制度、各種研修や自己啓発支援などの人材育成制度を構築・運用しています。

知的資本

- 研究開発費 1億2千万円
- 事業を支える技術・ノウハウ 「このまち電気」の料金計算システムに関する特許取得

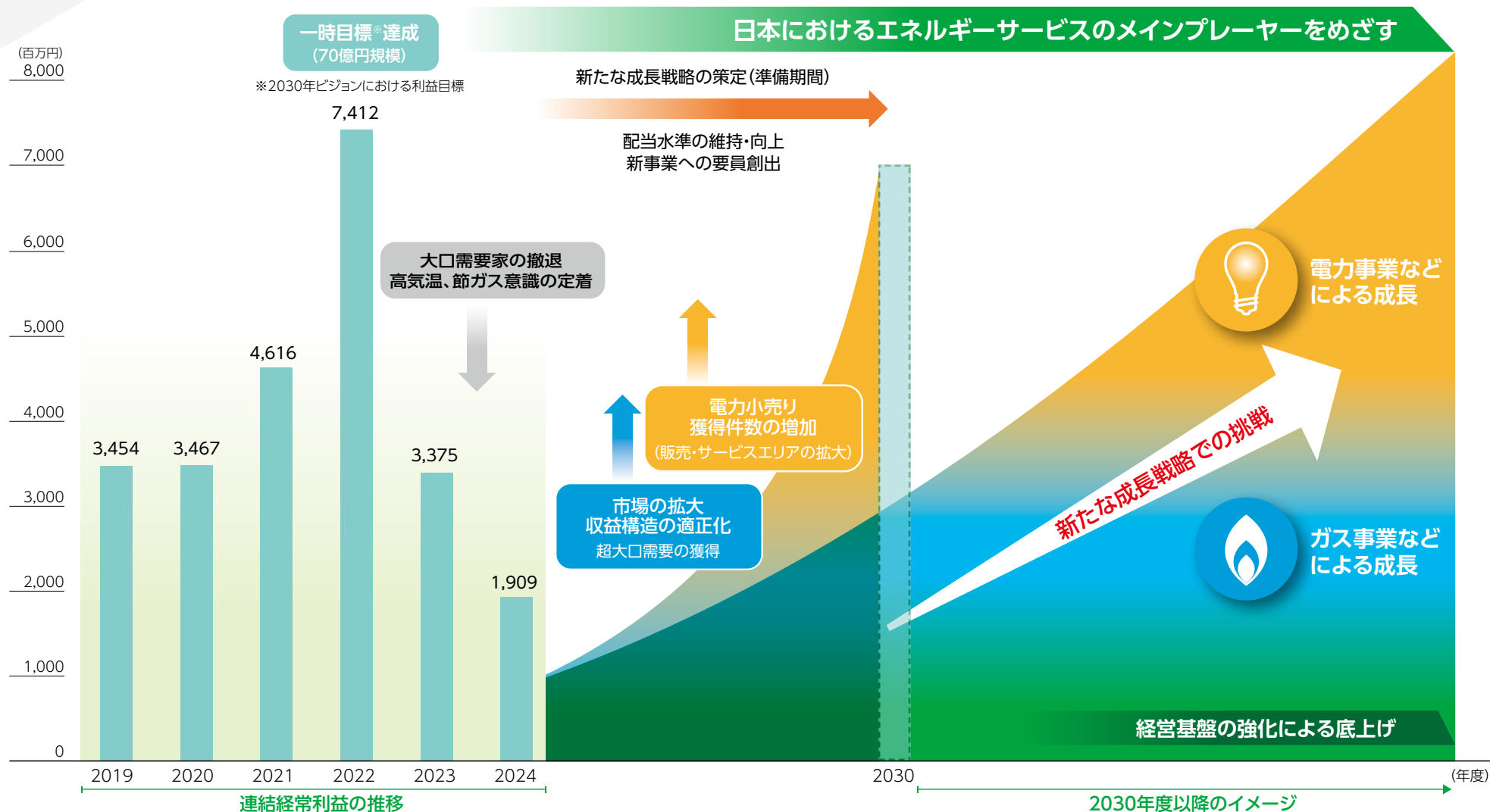
ガスの製造・供給技術および新たなガス利用技術の調査・導入に関する研究開発に取り組み、2001年度にはその強化を目的として技術研究所を設立しました。競争優位性を築き、持続的な成長を支える基盤として、「このまち電気」の料金計算システム、料金計算方法およびコンピュータプログラムに関する特許(特許第7682233号)を取得するなど、知的資本の取り組みを企業価値向上につなげています。

価値創造ストーリー

さらなる価値創造に向けた戦略・ロードマップ

2030年ビジョンとその後のイメージ

国のエネルギー・環境政策の方向性見極めなどにより、2030年までに想定していた超大口需要獲得の不確実性が高まる中、今後の持続的成長に向け、2030年以降の新たな成長戦略を検討・策定していきます。



価値創造ストーリー

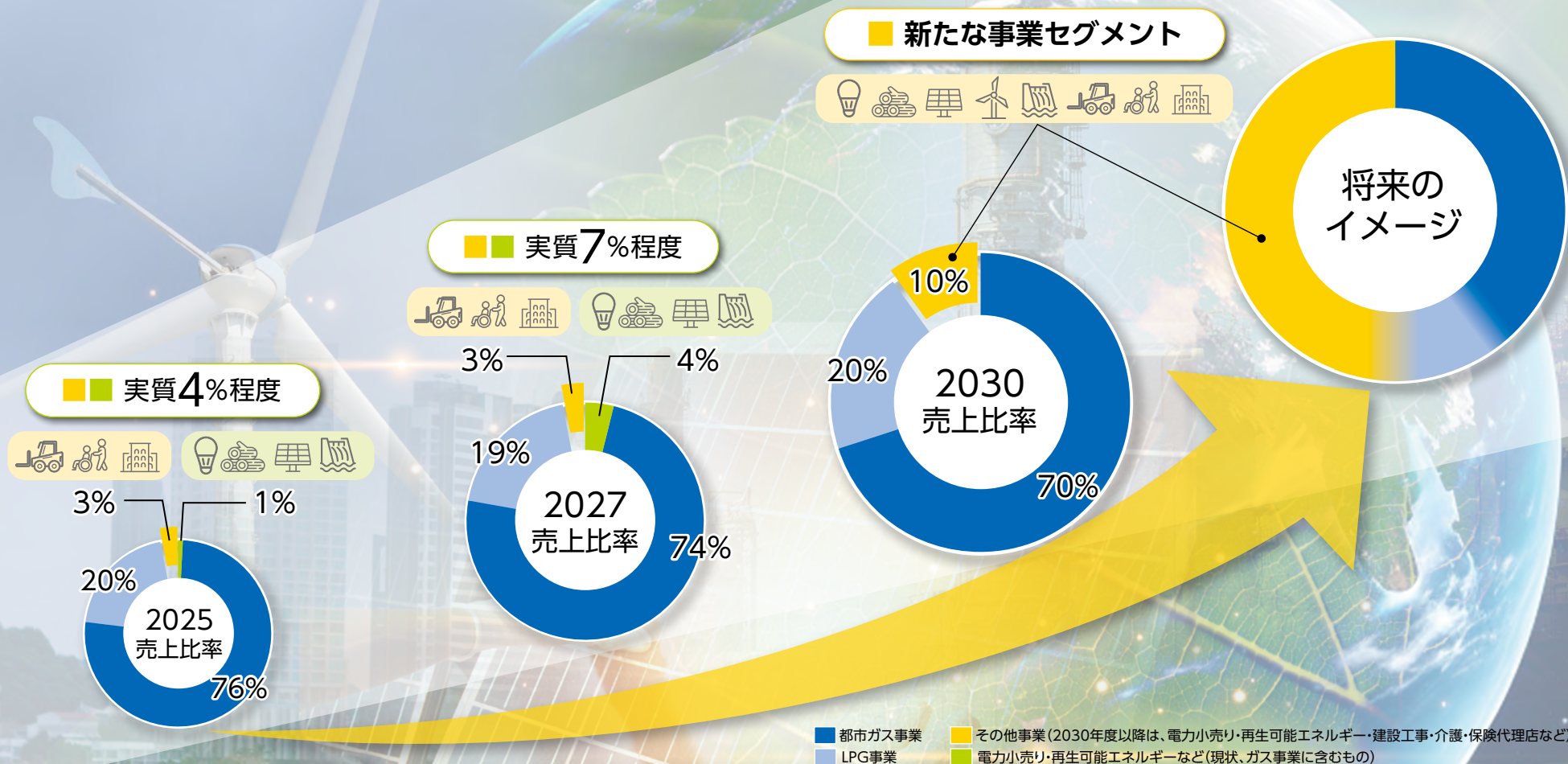
さらなる価値創造に向けた戦略・ロードマップ

事業ポートフォリオの変革

電力事業を拡大し、都市ガス事業・LPG事業に並ぶ新たな事業セグメントとして確固たるポジションを確立することで、広島ガスグループの持続的な成長につなげていきます。

2025年度中期経営計画期間

2030年ビジョンからその先へ



価値創造ストーリー

さらなる価値創造に向けた取り組み

2050年カーボンニュートラルへの取り組み

2021年に策定した「2050年カーボンニュートラルへの取り組み」に沿って、当社グループ役職員が一丸となり、2050年カーボンニュートラルの実現をめざしていきます。

2050年に向けたロードマップ

- 2030年までは、これまで実行してきた環境負荷低減に向けたさまざまなESG関連事業の取り組みを中心に、事業活動やお客さま先におけるCO₂排出量の低減を着実に推進していきます。
- 将来的には、メタネーションや水素の利用による「ガス自体の脱炭素化」に取り組むとともに、電源の脱炭素化も含め、2050年のカーボンニュートラルをめざしていきます。

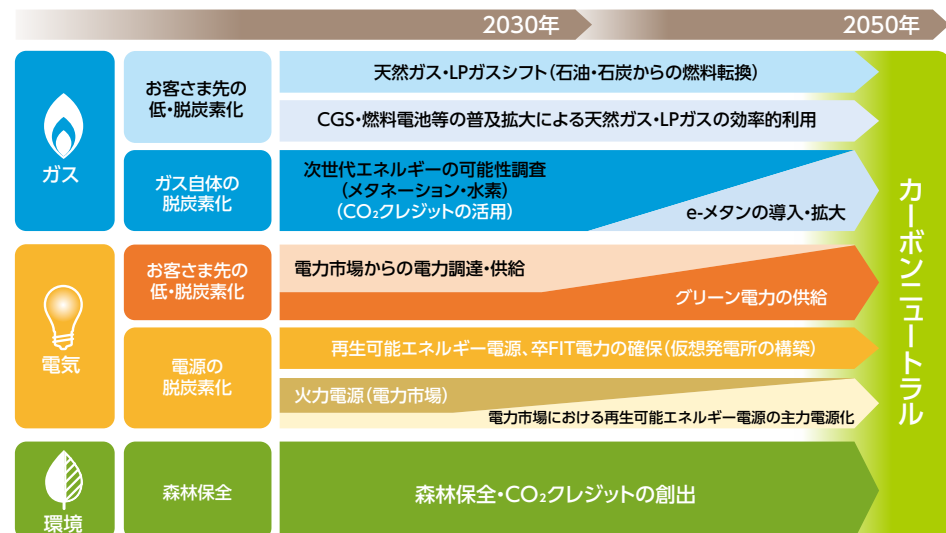
● 2030年度目標



※1 当社およびお客さま先における2021年度からのCO₂排出削減貢献量

※2 太陽光、風力、バイオマスなど固定価格買取制度(FIT)の適用電源を含む

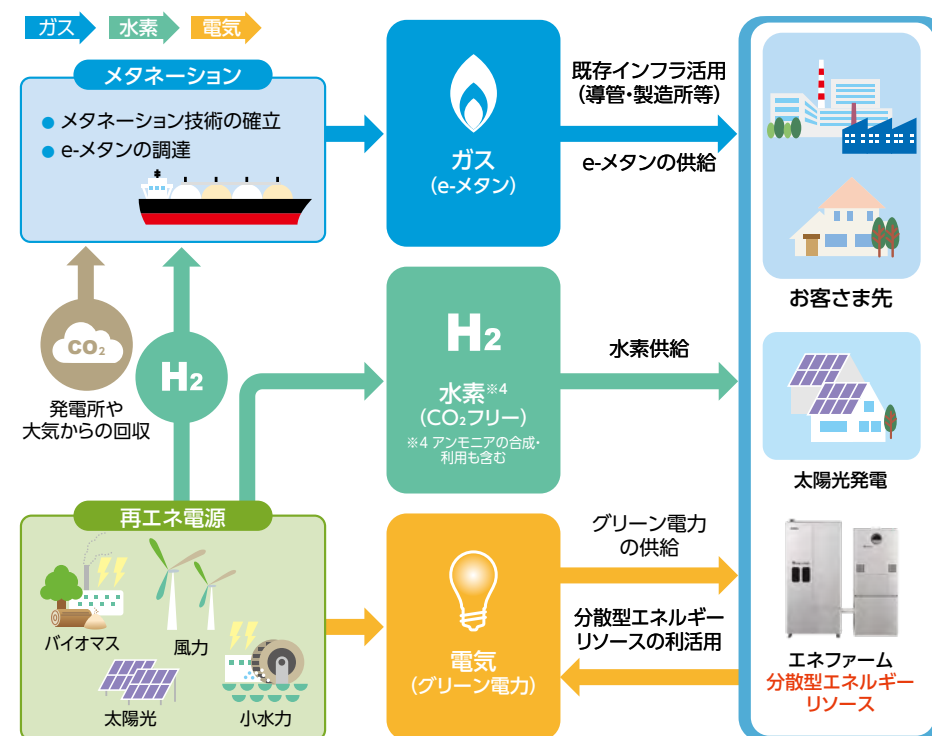
※3 CO₂排出削減貢献量 30万t/年に含む



基本的な取り組み

天然ガス・LPガスシフトおよび効率的利用による「お客さま先の低炭素化」を着実に進めつつ、e-メタンの導入、バイオガスの利用を通じた「ガス自体の脱炭素化(供給側の脱炭素化)」へ移行していくことで、2050年のガスのカーボンニュートラル化に挑戦します。

● カーボンニュートラル実現に向けたエネルギーシステムのイメージ



価値創造ストーリー

さらなる価値創造に向けた取り組み

具体的な取り組み



石油・石炭からの天然ガス・LPガスシフトおよび効率的利用

- 石油・石炭から天然ガス・LPガスへの燃料転換
- 分散型エネルギーシステムの普及拡大
- LNGバンカリング※4

※4 船舶用燃料としてのLNG供給

ガス自体の脱炭素化

- 水素およびe-メタンの利用
- CO₂クレジットの活用



事例紹介

地域の原料を活用した
メタネーション実証事業

西部ガス(株)を代表事業者とする「地域原料活用によるコスト低減を目指したメタネーション地産地消モデルの実証」に参画しています。本実証事業は、地域資源である再生可能エネルギーの余剰電力や近隣工場などから発生する副生水素・未利用CO₂を有効活用したメタネーションにより、e-メタン製造コストの低減と環境価値提供をめざすものです。

本実証事業での事業性評価などをもとに、中国地域でのメタネーション地産地消モデルの構築に向け、検討を進めていきます。



メタネーション実証設備

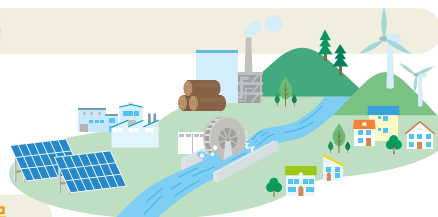


グリーン電力の供給体制の構築

- 分散型エネルギーリソースの普及・利活用
- グリーン電力の販売

再生可能エネルギー電源の確保

- 再生可能エネルギー電源の導入拡大



事例紹介

グリーン電力の販売

2024年1月から、当社の都市ガスもしくは当社指定のグループ会社のプロパンガスをご利用されている主に家庭用のお客さまを対象に、グ

リーン電力の販売を開始しました。再生可能エネルギー由来の環境価値を付加し、CO₂排出量が実質ゼロとなる電気のご提供により、お客さまと共に環境貢献に取り組んでいきます。

事例紹介

再生可能エネルギー電源の導入拡大

大野浦バイオマス発電所

2025年3月から、廿日市市大野において、国内の林地残材を中心に利用したバイオマス発電事業の実施に向けたプラント建設工事に着手しています。当社グループ単独では初となるバイオマス発電事業であり、2026年7月の営業運転開始を予定しています。

小形風力発電事業への参入

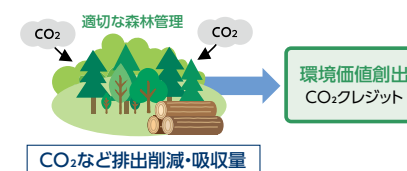
北海道において、当社グループ初となる小形風力発電事業に参入しました。2025年4月より8基の小形風力発電設備を順次建設し、2025年9月までに全基の営業運転開始を予定しています。今回の8基の運転管理などで得られる知見を、今後の風力発電事業の開発に活かしていきます。

森林保全を通じたCO₂削減への貢献

- 森林保全
- CO₂クレジット※5の創出

※5 政府や企業間で取引される、森林保全や再生可能エネルギーの導入といった事業によるCO₂などの排出削減量・吸収量を表したものを

- CO₂クレジットの創出



事例紹介

森林保全に関する近年の主な動き

2019年 11月	広島県緑化センター内に「このまち思い 広島ガスの森」を開設
2020年 7月	林野庁と分収造林契約を締結
2020年 9月	広島県竹原市仁賀町の森林地を購入し、「このまち思い 広島ガス竹原の森」を開設
2020年 11月	広島県神石郡神石高原町星居山(ほしのこやま)に「このまち思い 広島ガス神石高原の森」を開設 「広島県森林組合連合会」と広島県における計画的な森林の伐採、植林、保育による森林保全に取り組むことを目的とした協定を締結
2022年 4月	「このまち思い 広島ガス竹原の森」の未利用木材を海田発電所へ木質燃料として供給開始
2023年 2月	北海道日高郡新ひだか町に「このまち思い 広島ガス日高の森」を開設
2023年 3月	広島県神石郡神石高原町石屋山に「このまち思い 広島ガス神石高原の森」を開設
2023年 11月	「山口県森林組合連合会」と山口県における森林の循環利用事業に関する協定を締結